

【公表】 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 運動療育センター キートス・トリー
○保護者評価実施期間	令和 7 年 3 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 8 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 17 (回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和 7 年 3 月 5 日 ~ 令和 7 年 3 月 12 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 9 (回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 20 日

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数で丁寧な支援が可能	平日は1日2~4人、土曜日にもグループ分けを行い少人数での支援体制を整えており、一人ひとりに十分な関わりができるよう心がけている。	支援内容や目標を可視化し、個別の進捗や関わり方をスタッフ間で統一する取り組みを継続。家庭との連携を深め、支援の方向性を共有する機会を増やす。
2	『36の基本動作』に基づいた運動に重点を置いた構成	日々の活動に粗大運動を取り入れ、跳ぶ・走る・這うなど発達段階に応じた「36の基本動作」を意識したメニューを組み込んでいる。	活動の記録とフィードバックを定期的に振り返り、成長に応じた運動内容へ調整。新しい動きや感覚遊びを取り入れ、飽きの来ない運動支援を目指す。
3	子どもに合わせた個別支援の工夫	一人ひとりの発達段階や関心に応じて、指先・口腔・感覚などのトレーニング内容を調整。支援計画に沿って短時間でも効果的な個別支援を実施している。	事前アセスメントと定期評価をもとに、支援内容を継続的に見直す体制を強化。個別支援の工夫を記録・共有し、スタッフ間の質的向上を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が少ない	支援時間が午前中中心の短時間であることから外部との交流が少ない傾向にあり、地域との接点を持ちにくい。	近隣の施設や小規模イベントとの連携を検討し、無理のない範囲で地域との交流を段階的に取り入れる計画を立てる。
2	中抜けの児童はスケジュールの都合上、支援時間が短くなることがある	送迎スケジュールなどにより、活動時間の途中で離席する児童が一定数おり、十分な支援時間が確保できない場面がある。	中抜け対象児には支援の活動設計を工夫するほか、家庭との連携を密にし、可能な限り滞在時間を調整する働きかけを行う。
3	保護者とのコミュニケーション頻度・内容にばらつきがある。	保護者への連絡は月1回の活動写真の送付を基準としているが、職員ごとの声かけや補足連絡の頻度や内容に差があり、保護者によって情報量に偏りが生じている。	月1回の情報共有を基本としつつ、伝える内容のテンプレート化を進め、誰が対応しても同じレベルの情報が保護者に届くようにする。加えて、連絡帳や口頭での補足説明が必要なケースは職員間で事前に共有し、対応の偏りを減らす体制を整える。